

十月の保育

及川ふみ

幼稚園の一年を通じて、一番おちついたよい保育期はこの第二學期であらう。わけても十月、十一月はその中でも最もよい保育の時期である。保育行事も盛に行はれて、運動會に、遠足に、園の内外で幼児たちを樂しませる事も多ければ、それ等の好機會を促らへて保育の内容を充實させる數々のものがあるさきでもあらう。

幼稚園の内外に觀察の材料も豊富な時期である。毎日眺めてゐても何の木か、何の葉か何の實かさへもわからないで過すころもあるものである。手折つたり、拾つたりして與へられるものは出来るだけ幼児たちにいぢらせて、おもちゃにさせてもよいし、又保母の方で何かにつくれるものであればこしらへて見せてもよい。又蟲や赤さんぼなぎの手近にゐるものについての觀察も見のがしには出来ない。

十月こそは、室内保育よりも屋外保育の絶好の季節である。幼児と共にいざ屋外へ。

第一週 九月三十日——十月五日

月

お話 十月一日よりの防空演習について
唱歌 遊戯コツキフレフレ 小鳥のお話
自由遊びの時に駆けつこ

火

十月一日
明治神宮遙拜式
自由畫 柿 柿は枝についたものがあればよいが實だけでもよい。

粘土 柿

水

唱歌遊戯 コツキフレフレ 小鳥のお話 愛國行進曲
 缺仕事 自由製作

紙の代用に幼稚園の庭の木の葉を用ふ。出来上つたものは製作帖に貼らずに、古新聞紙にはつておく。これは保存には不適當なところもあるが、幼児の工夫するところに重點をおいてして見る。

木

お話

ヌリエ ホ、ヅキ

自由遊び 繩ミビ 一人飛びの出来る繩を用意して繩ミビ遊びをさせる。これは跳躍で全身の運動になつてよい。はじめはなか／＼さべないが、練習する間に飛べて来る。遊戯の時にピアノに合わせて飛べる様になるまでにする。

金

自由畫 數人の幼児に新聞紙或は包装紙なごに大きく毛筆で畫かせる。他の幼児は普通の自由畫帖に畫き次回に交代する。毛筆は不用意には畫かれないから幼児自身でもおちついて畫くであらうし又、畫き上げたものに筆勢に味のあるものである。

自由遊びの時に繩ミビをつゞけてする。

唱歌遊戯 愛國行進曲、日の丸行進なき運動會の練習をする。

第二週 十月七日——十月十二日

月

運動會の豫行練習

火

運動會

附屬幼稚園の運動會は學校全體で舉行するのであるが幼稚園は午前中だけで、午後は一度解散して自由行動とする。

遊戯 小鳥のお話 コツキフレフレ 愛國行進曲

日の丸行進 附屬小學校低學年ご合同

競走 各組男女別にする。

水

お話 きのふの運動會

自由畫 運動會

木

唱歌遊戯 松ボツクリ

ヌリエ 柿

金

ラヂオ童話

缺仕事 木の葉を材料とする。

土

お話 火曜日の遠足芋掘りのお話
自由遊び 縄遊び

第三週 十月十四日——十九日

月

唱歌 松ボックリ
遊戯

テル／＼坊主つくり

火

久米川學校農園へ遠足

高田馬場午前八時半集合 午後二時三十分解散 保護
者の有志者は参加してもよい。

水

お話 靖國神社臨時大祭について
久米川遠足についての話合ひ

自由畫 久米川遠足の自由畫

神嘗祭のお話

木

神嘗祭休日

金

鋏仕事 古端書で小猫をつくる
ヌリエ 模様 お魚

土

鋏仕事 古端書で小猫のお家をつくる
第四週 十月二十一日——十月二十六日

月

お話

鋏仕事 古端書で鶏小屋つくり

火

唱歌 幼稚園のお庭
遊戯

鋏仕事 鶏小屋つゞき

水

粘土 自由製作

木

お話

織紙 古端書にて市松

金

保護者會 幼児お休み個人的に懇談す

土

唱歌 幼稚園のお庭

遊戯

自由遊び

第五週 十月二十八日——十一月二日

お話 日曜日のごまの話し合ひ

繪ばなし

織紙 古端書

火

唱歌遊戯 兄弟雀

粘土 自由製作

水

自由畫 毛筆にて新聞紙にかく事、數人の他は自由畫帖

に畫く

木

ヌリエ 落葉

園内の落葉拾ひ いろ／＼の種類を拾ひ集め形、色、そ

の數なごについて話合ふ

新聞紙或は包装紙に種類のこまなつたものを貼つて木葉

の名稱をカタカナで書いておく

金

唱歌遊戯 兄弟雀

ラヂオ 童話

土

お話 明治天皇様の御事 明治神宮

自由畫 庭の草花

最新 幼稚園唱歌集

定價 送料 發行所 日本幼稚園協會

目次

- 一、コキフレフレ 倉橋惣三作詞 倉橋惣三作曲 十二、たんぼぼ 大森敏子作詞 高城富貴子作曲
- 二、幼稚園のお庭 倉橋惣三作詞 井上武士作曲 十三、すゞめ 三雲泰子作詞 高城富貴子作曲
- 三、だるまちゃん 楠正子作詞 小松耕輔作曲 十四、チュウリップ 久保紀子作詞 宅孝二作曲
- 四、お洗濯 相田多雄作詞 梁田貞作曲 十五、春が来た 池田政子作詞 宅孝二作曲
- 五、汽車 土田千草作詞 中山晋平作曲 十六、貝拾ひ 高城富貴子作曲 孝二作曲
- 六、雲よ降れ降れ 辻繁作詞 宅孝二作曲 十七、うさぎ 高城富貴子作曲 孝二作曲
- 七、煙 津村滿喜子作詞 十九、七五三 土田千草作詞 坊田かすみ作詞 二十、鬼ごっこ 高城富貴子作曲 清水あき作詞 廿一、お母さま 西村美奈子作詞 小林つや江作詞 廿二、てんてん 高城富貴子作曲 井上武士作詞 廿三、おんまり 高城富貴子作曲 伊藤逸子作詞 廿四、春の野花 宅孝二作曲 弘田龍太郎作曲 廿五、おはなし 杉山米子作詞 高城富貴子作曲

目次を御覽下さつてもお分りのやうに、歌詞の中には、倉橋先生のお作のものが二つもあり、又フレール賞入選の童話、小學校生徒の詩になるものあり。幼稚園唱歌の歌詞としては申分のないもの。作曲者又、皆、斯界の權威者であると同時に、幼稚園唱歌に對して經驗と興味と理解との三つを兼ね備へられた方々ばかりでございますので、之も申分のないものであることは言ふまでもございませぬ。御希望の方は定價と送料とを添へて、本會宛てお申込み下さい。(編輯係り)